

共同運営部門：相談支援室・がん相談支援センター

一関係部署一

関連部署		スタッフ名
がん相談支援センター長		位藤 俊一
外来 看護師	相談員	飛野 悦子
医療マネジメント課 MSW	相談員	下村 恭子

一概要一

【業務の特色】

当部門は大阪府指定のがん診療連携拠点病院のがん相談支援センターであり、当院の患者さんや地域住民に対し、国立がん研究センター認定のがん専門相談員(看護師、MSW)が、がんの治療や療養生活の不安に対して、情報提供や相談支援を行っている。相談は面談や電話で行い費用は無料である。また、がん以外の疾患や受診科の相談にも対応している。

2016年度の相談件数は延べ1,847件で、前年度の1,766件を81件上回った(図1)。患者さんの受診状況は、58%が当院通院、入院中であり、他院患者さんは10%、地域住民等は32%であった(図2)。

対応方法は対面相談が約7割、電話相談が約3割で、当院に外来受診した時や入院中に直接相談に訪れる方が多い(図3)。疾患の内訳はがんが52%、がん以外・不明は48%であった(図4)。がんの場合は部位別でみると、乳がんの相談が一番多く、次いで血液疾患、大腸・小腸が続く(図5)。

相談内容は身体的のみならず、心理的、経済的、在宅生活、社会的な不安等多岐にわたり合計は4,416件で(図6)、延べ相談件数1,847件(図1)に対して約2.4倍であることから、相談者はひとりで複合的な問題を抱え込んでいる事が分かる。そこで当部門の看護師とMSWは各々の専門性を用い患者さんご家族の相談内容を医療-生活-心理面の視点から整理して、治療や生活に必要な情報提供と支援を行う。また、院内他部門や院外他機関と連携して治療とQOLの維持が可能になる様サポートをしている。治療方針等に悩む場合はセカンドオピニオンの情報提供を行う(図7)。

この様に、当部門の特徴と役割は、患者さんが相談に訪れやすい場の保証をし、早期から支援をしていく事である。

また、がんの手術後経過観察の時期は、患者さんを当院とかかりつけ医が共に診療する「がん地域連携パス」を導入し安心して在宅療養できる体制を敷いている。他に情報発信として泉州のがん診療連携拠点病院と協力しがんに関する講演会を開催している。

一実績一

【相談業務内容】

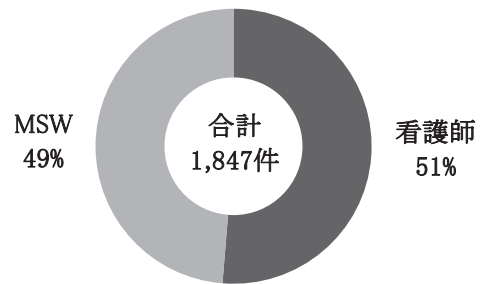


図1 延べ相談件数と相談員職種

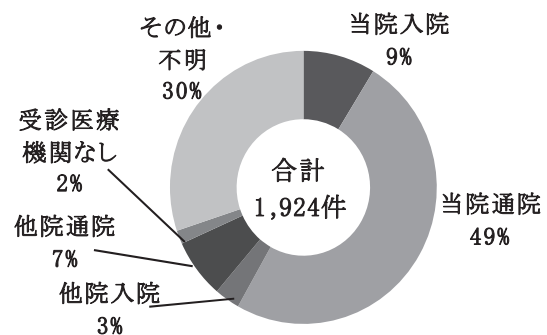


図2 受診状況の割合

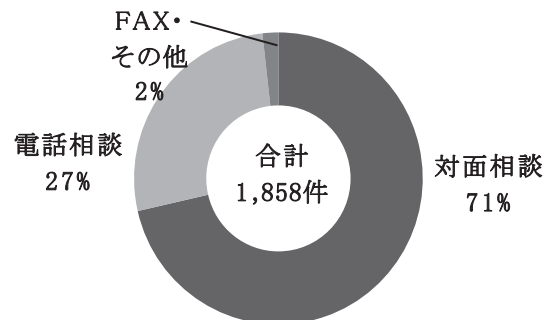


図3 対応方法

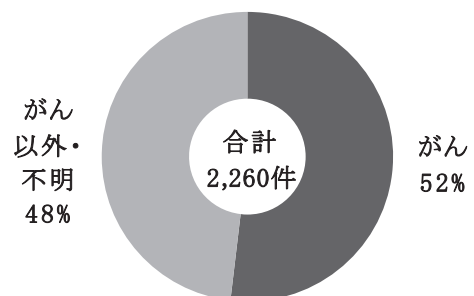


図4 疾患

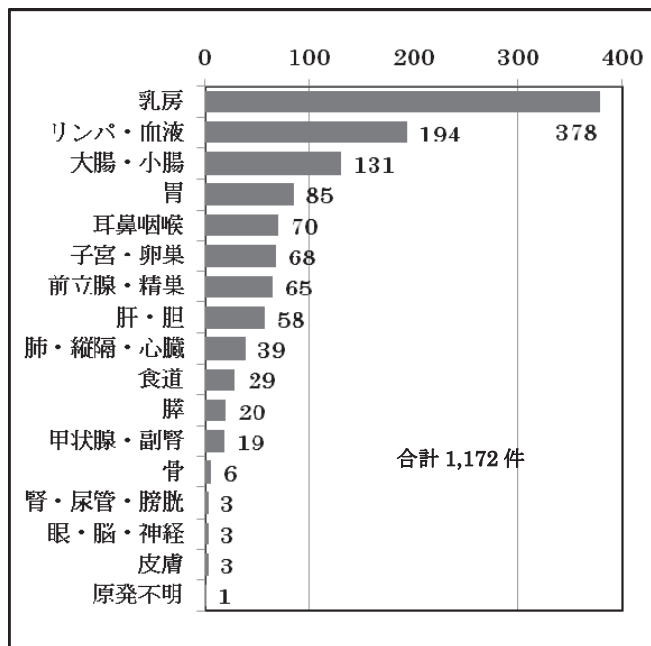


図5 がんの部位別件数

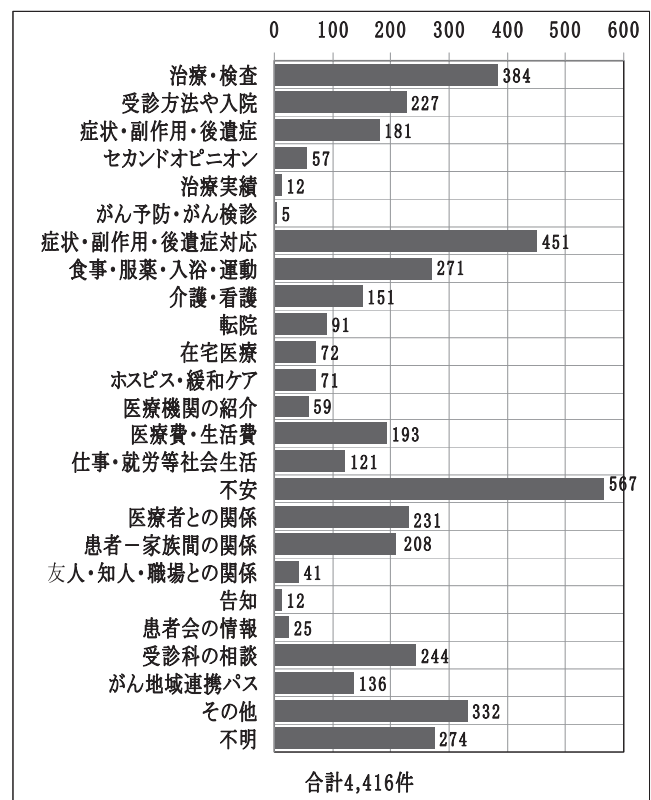


図6 相談内容

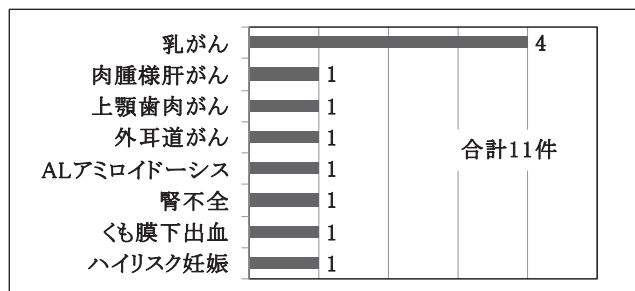


図7 セカンドオピニオン受入件数（当部門対応件数）

【大阪府がん診療連携協議会・相談支援センター部会】

2016.6.8 / 2017.2.18

大阪府内の国指定と府指定のがん相談支援センターが相談業務の質の向上と均点化を目的に協議した。

【泉州がん診療連携協議会 がん相談支援部会】

2016.4.19 / 2016.8.30 / 2016.12.20

- ・がん治療と仕事の両立支援相談の際に相談員の心理的支援が重要でありスキルアップ向上のため心理職による学習会「辞めないための意思決定支援」に参加(2017.3.3)。
- ・地域住民のがんの正しい知識を持ち安心して治療を受けることを目指す講演会を企画し開催した。

2016年度テーマ「がんとともにいきいきとわたしらしく」

第7回 泉州がん拠点病院 合同講演会
開催日 2016.10.29 場所 市立岸和田市民病院
内容 参加人数 48名
・仲間とともに輝いて生きる いきいき和歌山がんサポート
・がん情報サイト「大阪がんええナビ」の紹介

第5回 泉州がん拠点病院 合同地区講演会
開催日 2017.2.4 場所 和泉市コミュニティセンター
内容 参加人数 30名
・がん治療の進歩 和泉市立病院 外科医師
・がん患者の就労支援と社会保障制度 社会保険労務士
・余命2か月から20年がんサバイバー話 NPOせかんど

【国立がん研究センター、大阪府主催の研修会】

参加者 飛野・下村
国立がん研究センター eラーニング
2016年度がん相談支援センター相談員継続研修
大阪府がん診療連携協議会相談支援センター部会
2016.11.5 「治療と職業生活の両立支援」
2017.2.18 「がん相談員のためのコミュニケーション」

—今年度の成果と反省点—

成果としては、当院でがんの治療をしながら、他院で別の疾患を治療しているケースが多くあり、当院一他の医療機関一在宅支援機関の間での情報共有や連携の機会が増え、役割分担等が円滑にできた。当部門の役割を周知するため患者さんにリーフレット配布、医療関係者向けの緩和ケア研修会等で情報発信した。反省点や課題としては、がん患者さんが離職しない支援について面接技法を更に習得する必要がある。

—来年度への抱負—

患者さんや地域住民へのがん医療の啓発活動や、がん対策推進基本計画の中の重点的取り組み課題であるがんと仕事の両立について、相談支援の充実を目標としたい。